

久留米市社会福祉協議会 事業報告

主な取り組みと決算状況をお知らせします。

1 地域福祉活動の推進支援

①「くもめ支え合っプラン」の地域展開

社会福祉法の改正に伴う、重層的支援体制整備事業に対応するため「くもめ支え合っプラン」の一部改訂を行い、地域展開を進めました。

②見守りや支援の対象者を広げる

支え合い推進会議等が行う学習会等で、支援を必要とする人や世帯の現状を共有し、見守りや支援の対象者が広がるよう働きかけました。

③コミュニティ組織との新たなネットワーク化

校区「コミュニティ組織を中心に、支え合いの必要性や支え合い推進会議の意義について、継続して説明を行い、新たに1校区に支え合い推進会議が設置されました。また、各校区の支え合い推進会議で特色のある協議が展開され、



中高生ボランティア体験講座の様子

日常生活を営む上で抱える困りごとを解決することを目的とした、生活支援団体が7団体立ち上げられました。

④興味や関心事を軸として集う市民グループとの連携

市民グループによる移動支援や居場所づくりの開設に向け、伴走支援を行い連携を進めました。

⑤地域福祉を担う人材の育成

聴覚障害児と中高生の交流を通じたボランティア体験講座を実施しました。

2 相談・支援

①組織内の情報を支援活動に活かす

介護保険認定調査で訪問する中で、福祉課題のある世帯に対し、その解決に向けた支援活動に繋げました。また、災害ボランティアセンターの運営では、被災者の生活環境の回復に努め、その過程で気づいた福祉課題の対応に努めました。さらに、市内の支援関係機関等との連携による支援活動に活かすため、制度の学習や意見交換を行うための場「重層的な支援体制の構築を考える会」を開催しました。

②継続的で柔軟な対応を行う

「複合・狭間」の課題解決に向け、潜在的な相談者へ対するアウトリーチを行い、支援関係機関へ繋げることに努



支援関係機関との会議の様子

めました。

制度の狭間にある人に対する支援を行う「ライフレスキュー久留米連絡会」では、28の社会福祉法人が地域等に提供できる設備や資材・物品など、社会資源をまとめた「地域資源BOOK」を作成し、参加法人での共有や、校区社会福祉協議会、ボランティア団体等に配布しました。

③地域へのきめ細やかな働きかけ

地域福祉の推進に関する住民同士の話し合いの場に参加し、住民間の情報共有、支え合っ関係づくりの促進、課題解決に向けての支援を行いました。

④要支援者の情報を速やかに把握する

通常の見守り訪問活動に加えて、電話や手紙での安否確認も呼びかけるなど、コロナ禍においてもつながりを絶やさないための働きかけを行いました。また、地域住民を対象とした学習会、研修会等を校区社会福祉協議会等とともに実施しました。

3 権利擁護

①法人後見事業

コロナ禍により面会や訪問が制限されている状況下でも、本人に不利益が生じないよう関係機関と連携を図りながら対応を行いました。

②市民後見人の育成

市民後見人候補者に対してフオロアップ研修を実施しました。